

## 総合周産期母子医療センター（小児科部門）

### < 新生児集中治療部 >

#### 1. スタッフ（平成27年4月1日現在）

部長・病棟医長（准教授）矢田ゆかり

医員（助教）俣野 美雪  
 （助教）鈴木 由芽  
 （病院助教）下澤 弘憲

他、小児科と兼務

#### 2. 新生児集中治療部の特徴

栃木県の総合周産期センター二施設のひとつとして、栃木県で出生するハイリスク新生児のほとんどを二分する形で診療している。地方の中核病院であり、入院するハイリスク新生児の疾患は、超低出生体重児から先天異常、外科疾患など多岐にわたる。勤務するスタッフは全員、診療科としては小児科に属しており、兼務である。

##### ・認定施設

日本周産期・新生児医学会認定研修施設

##### ・認定医

日本周産期・新生児医学会（新生児）専門医  
 矢田ゆかり、俣野 美雪

#### 3. 実績・クリニカルインディケータ

##### 1) 年間入院患者数

449名（再転入4名を除く）。院内出生404名（初診時から外来観察79名、母体搬送37名、母体外来紹介288名）、院外出生45名（病院等からの搬送43名、自宅分娩等2名）。

##### 2) 人工呼吸器管理数・率

126/449例、28.1%。

#### 3) 生存率・死亡数など

出生体重（BW）別、在胎週数（GA）別入院数、生存数および死亡数を示す。

GA (W)	入院	生存	死亡	生存率 (%)
22	2	1	1	50.0
23	1	1	1	100.0
24	4	2	2	50.0
25	4	4	0	100.0
26	6	5	1	83.3
27	1	1	0	100.0
28	4	4	1	100.0
29	9	8	1	88.9
30	8	8	0	100.0
31	6	6	0	100.0
32	19	18	1	94.7
33	25	25	0	100.0
34	17	17	0	100.0
35	26	25	1	96.2
36	36	35	1	97.2
37以上	281	278	3	98.9
計	449	438	11	97.6

BW (g)	入院	生存	死亡	生存率 (%)
< 500	3	2	1	66.7
< 1000	21	18	3	85.7
< 1500	27	26	1	96.3
< 2000	59	59	0	100.0
< 2500	86	83	3	96.5
> 2500	253	250	3	98.8
計	449	438	11	97.6

#### 4) 死亡症例内訳

- ・在胎24週 超低出生体重児（596g）、重症新生児仮死、動脈管開存、肺出血
- ・在胎39週 重症新生児仮死、DIC、低酸素性虚血性脳症
- ・在胎39週 肺動脈閉鎖、右室冠動脈瘻、急性腎不全、腹膜炎
- ・在胎26週 21トリソミー、非免疫性胎児水腫、一過性骨髄異常増殖
- ・在胎38週 鰓弓症候群、後鼻孔閉鎖、大動脈縮窄複合、空腸閉鎖、多発小奇形
- ・在胎29週 超低出生体重児（976g）、先天性横隔膜ヘルニア、肺低形成、尿道下裂
- ・在胎32週 非免疫性胎児水腫、水頭症、心筋肥厚、乳び胸水、Noonan症候群（疑）
- ・在胎24週 超低出生体重児（393g）、新生児仮死、緊

## 張性気胸

- ・在胎36週 Zellweger症候群
- ・在胎22週 超低出生体重児（558g）、新生児仮死、敗血症
- ・在胎35週 重症新生児仮死、GBS敗血症、DIC

## 5) 先天性心疾患入院例

有意な血行動態異常を呈する中等症・重症例25例。  
PICU転科13例、NICUから退院10例、NICU内死亡2例。

## 6) 多胎入院数

97名（21.6%）。

## 7) 外科症例（手術例のみ）

20例。他に光凝固3例。

## 8) 他院への搬送

9例。8例は状態安定後に搬送元等の病院に転院。1例は眼科治療目的に国立成育医療センターに転院。

## 4. 事業計画・来年の目標

周産期医療をめぐる状況は毎年、目まぐるしく変わっている。栃木県出生の新生児の他県への搬送は非常に少ないが、県内の産科施設の状況も不安定であり、このまま、県内出生全例の県内収容が継続できるか不透明である。今後も、県内の総合周産期センターである獨協医大、および関連の地域周産期センターと協力・連携を図って、栃木県、北関東地域の周産期医療の充実を図りたい。さらに、自治医大NICUは、周産期連携センターとしての役割もあり、来年もこれらの責任を果たしていきたい。

## &lt;新生児発達部&gt;

## 1. スタッフ（平成27年4月1日現在）

部長（学内教授） 河野 由美  
他、小児科と兼務

## 2. 新生児発達部の特徴

新生児発達部はNICUからの円滑な退院と在宅医療への移行のため、NICUと連携して新生児外来を担当している。主な対象は当院および地域関連病院のNICU退院児で、診療内容は成長・発達の健診とともに合併症の治療・精査、必要な養育支援である。

主な対象は、①早産低出生体重児、②合併症のあるNICU退院児、③新生児難聴スクリーニングの精査・フォロー、④シナジス外来（冬季に、RSV重症化予防のためのパリビズマブ接種）である。出生体重1500g未満の児は国の共通プロトコルに従って、心理、リハビリテーション部門とともに小学校入学後までフォローアップしている。

## 3. 実績・クリニカルインディケーター

昨年度の診療実績は、新生児外来年間受診者数 2102名、シナジス外来年間受診者数 189名であった。